

平成28年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立門前高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り扱い(改善策等)
1 授業力の向上と家庭学習の習慣化を図り、学力の向上を目指す。	① 教員全員が公開授業を学期に1回ずつ実施する。(各種研修や要請訪問等を含む。)	(教員) 公開授業を A 年3回実施した B 年2回実施した C 年1回実施した D 実施しなかった → D≧20%の場合、改善策を検討	A 58% B 42% C 0% D 0%	公開授業実施率が高い。この状態を継続し、さらに指導内容を高めることが重要である。
	② 他教科の公開授業を参観する。(小中学校を含め、他校の公開授業参観も含む。)	(教員) 公開授業を A 4回以上参観した B 3回参観した C 1、2回参観した D 全く参観しなかった → A+B<70%の場合、改善策を検討	A 53% B 37% C 10% D 0%	参観率は良好であるが、指導内容や方法についての意見交換を行い、ますます活発なものにしたい。
	③ 授業のねらいと方法を明確にする。	(教員) 授業のねらいと方法を明確にすることが A 達成できた B 概ね達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった → A+B<80%の場合、改善策を検討	A 35% B 65% C 0% D 0%	50分の授業を集中して受けることができるように、授業の内容や方法の工夫が求められる。
		(生徒) 授業のねらいが A 理解できた B 概ね理解できた C あまり理解できなかった D 理解できなかった → A+B<70%の場合、改善策を検討	A 24% B 62% C 10% D 4%	50分の授業を集中して受けることができるように、授業の内容や方法の工夫が求められる。
	④ 教員は、常に生徒にとってわかりやすい授業を展開することを心がけ、授業の工夫を行う。また、生徒も意欲的に授業に臨むように指導する。	(生徒・教員) 授業に A 分かりやすく、意欲を持たせる工夫があった B 概ね分かりやすく、意欲を持たせる工夫があった C 分かりにくく、意欲を持たせる工夫があまりなかった D 分かりにくく、意欲を持たせる工夫がなかった → A+B<70%の場合、改善策を検討	生徒 教員 A 25% 58% B 62% 42% C 10% 0% D 4% 0%	学習の定着度を十分に把握し、習熟度別または進路別授業を効果的に活用し、生徒の学習意欲を引き出すよう授業の改善が必要である。
		(生徒) 授業までに A 予習などの準備を行って、授業に臨むことができた B 概ね予習などの準備を行って、授業に臨むことができた C あまり予習をして授業に臨むことができなかった D 予習などの準備を行って、授業に臨むことができなかった → A+B<70%の場合、改善策を検討	A 10% B 23% C 44% D 23%	学習の定着度を十分に把握し、習熟度別または進路別授業を効果的に活用し、生徒の学習意欲を引き出すよう授業の改善が必要である。
	⑤ 生徒の学習支援に関する研修会を実施する。	(教員) 研修が A 支援に役だてた B 支援に概ね役だてた C 支援にあまり役立てなかった D 支援に役立てなかった → A+B<80%の場合、改善策を検討	A 42% B 58% C 0% D 0%	支援を要する生徒が増えてきており、更に職員の指導力の向上を目指したい。
	⑥ 学習時間調査に基づき、適時個別支援を行い、家庭学習習慣を定着させる。	(生徒・保護者・教員) 授業以外の学習時間が1日平均1年生2時間以上という目標について A 目標を達成した B ほぼ目標を達成した C 目標に届かなかった D 全くできなかった → A+B<50%の場合、改善策を検討	生徒 保護者 教員 A 11% 3% 11% B 21% 28% 74% C 58% 47% 15% D 10% 22% 0%	考查期間を除き、学習時間が少ない生徒が多いので、課題の量や質を工夫し、家庭学習の定着を図りたい。
		(生徒・保護者・教員) 授業以外の学習時間が1日平均2年生2時間以上という目標について A 目標を達成した B ほぼ目標を達成した C 目標に届かなかった D 全くできなかった → A+B<50%の場合、改善策を検討	生徒 保護者 教員 A 6% 3% 5% B 17% 22% 50% C 37% 53% 45% D 40% 22% 0%	考查期間を除き、学習時間が少ない生徒が多いので、課題の量や質を工夫し、家庭学習の定着を図りたい。
	学習時間調査に基づき、適時個別支援を行い、家庭学習習慣を定着させる。	(生徒・保護者・教員) 授業以外の学習時間が1日平均3年生3時間以上という目標について A 目標を達成した B ほぼ目標を達成した C 目標に届かなかった D 全くできなかった → A+B<50%の場合、改善策を検討	生徒 保護者 教員 A 28% 19% 42% B 22% 22% 53% C 31% 44% 5% D 19% 15% 0%	考查期間を除き、学習時間が少ない生徒が多いので、課題の量や質を工夫し、家庭学習の定着を図りたい。
⑦ 門高読書タイムや図書館講座を実施し、読書に集中して取り組む時間を確保することで、読書習慣を身に付けさせる。	(生徒) 読書タイムに読んだ本も含め A 年4冊以上読んだ B 年3冊読んだ C 年1、2冊読んだ D 1冊も読まなかった → A+B<60%の場合、改善策を検討	A 45% B 16% C 33% D 6%	生徒の読書に対する姿勢は良好であるため、読書活動の意義を機会があるごとに積極的に伝え、更に読書に対する意欲を高めたい。	
学校関係者評価委員会の評価	目的意識を明確にすることで進路実現に向けての取り組みが可能となる。また、高校へ入学後に他者との関わりを通して人間力の成長があり、キャリア教育へとつながっていく、門前高校生としての特性を伸ばし、高校の良さを認識させてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	各自の希望を明確にするべく、面談や講話、情報提供などを的確に行い、進路意識の高まりとキャリア意識の醸成を図る。また、中高一貫を通じて公開授業や異校種間の交流を深め、教員の授業力を高めることで、生徒の確かな学力の定着を目指す。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り扱い（改善策等）
2 規範意識や協働する意識を養い、地域に貢献する人材の育成を目指す。	① 保健委員の協力を得て、学校環境の整備と美化を行うよう努める。	（生徒）生活環境の整備、美化に A 率先して関わった B 概ね率先して関わった C あまり率先して関わらなかった D 関わらなかった → A+B<60%の場合、改善策を検討	A 39% B 42% C 16% D 4%	クリーン週間に年に3回実施し、特に、総持寺参道の清掃は部活動単位で行い、中高合同でバス停清掃を行うなど、地域に貢献している。今後も継続したい。
	② 学校生活全般において、身だしなみを整え、挨拶や正しい言葉遣いを行う。	（生徒・保護者・教員）身だしなみや言葉遣い、挨拶が A 良好であった B 概ね良好であった C あまり良くなかった D 良くなかった → A+B<80%の場合、改善策を検討	生徒 保護者 教員 A 46% 29% 27% B 43% 54% 68% C 10% 17% 5% D 1% 0% 0%	頭髪、服装容儀や挨拶は良好であるが、更に身だしなみを整え、挨拶を含めて正しい言葉遣いの指導を継続して行うことが重要である。
	③ 携帯電話等使用のルールやマナーを守る。	（生徒・保護者・教員）携帯電話の使用が A 良好であった B 概ね良好であった C あまり良くなかった D 良くなかった → A+B<80%の場合、改善策を検討	生徒 保護者 教員 A 45% 28% 16% B 45% 43% 79% C 8% 25% 3% D 2% 4% 0%	校地内で携帯電話を使用する生徒が若干見られるので、登校後は電源を切り、バッグの中に入れ、放課後まで校地内で使用しないように指導したい。
	④ 行事や諸活動に積極的に参加する。	（生徒）行事や諸活動において、自らルールやマナーを定めて守ることが A できた B 概ねできた C あまりできなかった D できなかった → A+B<80%の場合、改善策を検討	A 41% B 43% C 13% D 3%	校内外の行事への参加が多く、有意義な学校生活を送っている。今後も継続する。
学校関係者評価委員会の評価	携帯電話の使用に関しては、地域でも問題となっている。その背景には、保護者が学校へ指導をゆだねていることにあり、もっと学校・保護者・地域で連携を密にして情報共有を行う必要がある。一方で携帯電話の使用目的についても協議を深めてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	携帯電話等の使用時間や使用内容など、家庭での協力を仰ぎ、学校と家庭双方で正しい使用方法を身に付けさせる必要がある。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り扱い(改善策等)										
3 一人ひとりの資質・能力を高め、社会の変化に対応できる実践力を育む教育の推進を目指す。	① 習熟度別授業や進路別授業、補充授業、個別指導、全国模試等によって、生徒の学力向上とより高い目標設定を図り、意欲的な態度を養う。	(教員) 全国模試偏差値50以上の生徒の割合が各学年10%以上という目標について A 目標を達成した B 目標をほぼ達成した C 目標の半分ほどであった D 目標の半分以下であった → C以下の場合、改善策を検討	全校生徒110名に対し75名の進学希望者がいる。偏差値50以上は9名であり、 B	全体としては良好な結果であるが、2年生は一層の改善が望まれる。学習計画の作成、個別指導の強化を行う。										
		(教員) 国公立大学合格者数5名以上という目標について A 目標を達成した B 目標をほぼ達成した C 目標の半分ほどであった D 目標の半分以下であった → C以下の場合、改善策を検討	国公立大学合格者は7名であり、 A	計画的学習・個別指導の強化が功を奏した。少人数に対しこの指導方針の継続を行う。										
	② 個人面談などを何度も繰り返すことによって、個々の進路希望を早期に把握し、個々の希望、適性を考慮した指導を行う。	(生徒・保護者) 目標を設定し、学習活動に意欲的になることについて A 目標を持って、意欲的に学校生活を送っている B 目標があり、概ね意欲的である C 目標はあるが、あまり意欲がない D 目標も持てず、意欲も湧かない → A+B<70%の場合、改善策を検討	<table border="1"> <tr> <td>生徒</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>A 34%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>B 28%</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>C 31%</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>D 7%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	生徒	保護者	A 34%	20%	B 28%	36%	C 31%	34%	D 7%	10%	学習活動に意欲的になった生徒の割合は年度末の調査で65%と前年並みで、目標に達しなかった。3年生は81%で目標は達成されたが、重要課題のため継続する。
		生徒	保護者											
		A 34%	20%											
		B 28%	36%											
		C 31%	34%											
D 7%	10%													
(3年生) 進路実現について A 希望の目標を達成できた B 概ね希望通りで、納得できる目標を達成できた C あまり納得できない D 納得できず、再度挑戦する → A+B<80%の場合、改善策を検討	<table border="1"> <tr> <td>A 67%</td> </tr> <tr> <td>B 22%</td> </tr> <tr> <td>C 7%</td> </tr> <tr> <td>D 4%</td> </tr> </table>	A 67%	B 22%	C 7%	D 4%	3年生の国公立大学合格者は難関校を含め7名であった。その他、公務員、医療系専門学校、公立の保育専門学校等に合格するなど、生徒それぞれの学習に対する努力と、それらの生徒を担当した教員の個別指導が、様々なステージでこのように実を結んだ。結果として、進路希望の達成率A B評価の合計が89%であり、良好な評価となった。今後には生かしたい。								
A 67%														
B 22%														
C 7%														
D 4%														
(保護者) 学校からの情報提供の内容や回数について A 学校からの情報提供は適切で、満足している B 学校からの情報提供は概ね適切である C 学校からの情報提供はあまりなかった D 学校からの情報提供は、ほとんどなかった → A+B<70%の場合、改善策を検討	<table border="1"> <tr> <td>A 24%</td> </tr> <tr> <td>B 57%</td> </tr> <tr> <td>C 19%</td> </tr> <tr> <td>D 1%</td> </tr> </table>	A 24%	B 57%	C 19%	D 1%	学年だよりは9回、進路だよりは2回発行している。今後も情報共有に努めたい。								
A 24%														
B 57%														
C 19%														
D 1%														
(教員) 適切な学習・進路指導をするために A 生徒理解ができた。 B 生徒理解が概ねできた。 C 生徒理解があまりできなかった。 D 生徒理解ができなかった。 → A+B<70%の場合、改善策を検討	<table border="1"> <tr> <td>A 8%</td> </tr> <tr> <td>B 92%</td> </tr> <tr> <td>C 0%</td> </tr> <tr> <td>D 0%</td> </tr> </table>	A 8%	B 92%	C 0%	D 0%	面談週間を設け、生徒の早期理解に努めている。今後も継続する。								
A 8%														
B 92%														
C 0%														
D 0%														
③ キャリア教育講演会やインターンシップ、ボランティアを通して職業について考えさせる	(生徒) 勤労の尊さや意義について A 意義を感じた B 概ね意義を感じた C あまり意義を感じなかった D 意義を感じなかった → A+B<70%の場合、改善策を検討	<table border="1"> <tr> <td>A 52%</td> </tr> <tr> <td>B 30%</td> </tr> <tr> <td>C 13%</td> </tr> <tr> <td>D 5%</td> </tr> </table>	A 52%	B 30%	C 13%	D 5%	多様な職業に触れること機会が乏しく、職業観の育成が困難な状況にあるため、あらゆる機会を利用して職業意識を深めることが重要である。							
A 52%														
B 30%														
C 13%														
D 5%														
学校関係者評価委員会の評価		生徒の良さをいかに引き出し、それを生かすかが重要になってくる。門前高校は少人数であるため、一人ひとりの進路実現に向けた取り組みを達成するための、一つ一つの積み重ねが今後さらに重要になってくる。												
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		習熟度別・少人数授業の成果について随時検証し、学習集団に応じた指導を行う。また、面談を通じて適切な情報提供を行い、一人ひとりの生徒に合った進路指導を継続する。												

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の取り扱い（改善策等）															
4 部活動やボランティア活動を推進し、自ら課題を発見し解決する力の育成を目指す。	① 運動部は積極的に対外試合をし、競技力を身に付ける。文化部は積極的に発表の機会を持ち、発表力、表現力を身に付ける。	（生徒・保護者・教員）各部の目標に沿った積極的な活動が A 達成できた B 概ね達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった → A+B<60%の場合、改善策を検討	<table border="1"> <tr> <td>生徒</td> <td>保護者</td> <td>教員</td> </tr> <tr> <td>A 57%</td> <td>48%</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>B 22%</td> <td>35%</td> <td>47%</td> </tr> <tr> <td>C 12%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>D 9%</td> <td>7%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	生徒	保護者	教員	A 57%	48%	53%	B 22%	35%	47%	C 12%	10%	0%	D 9%	7%	0%	多くの部で積極的な対外活動を行っているが、各部で設定した目標に到達していない場合が多く、活動の質の向上を図る必要がある。
	生徒	保護者	教員																
	A 57%	48%	53%																
	B 22%	35%	47%																
C 12%	10%	0%																	
D 9%	7%	0%																	
② ボランティア活動に積極的に参加する。	（生徒）学校行事も含めた各種ボランティア活動に A 3回以上参加した B 2回参加した C 1回参加した D 1回も参加しなかった → A<50%、A+B<80%の場合、改善策を検討	<table border="1"> <tr> <td>A 53%</td> </tr> <tr> <td>B 29%</td> </tr> <tr> <td>C 12%</td> </tr> <tr> <td>D 6%</td> </tr> </table>	A 53%	B 29%	C 12%	D 6%	海岸清掃、そば作り、総持寺参道清掃、花壇作り、各種イベントなどボランティアの機会は多くある。今後も地域での活動を継続する。												
A 53%																			
B 29%																			
C 12%																			
D 6%																			
③ ボランティア活動を通して、地域に関わる意義を感じさせる。（年賀状、清掃など。）	（生徒）地域に関わることについて A 意義を感じた B 概ね意義を感じた C あまり意義を感じなかった D 意義を感じなかった → A+B<70%の場合、改善策を検討	<table border="1"> <tr> <td>A 52%</td> </tr> <tr> <td>B 30%</td> </tr> <tr> <td>C 12%</td> </tr> <tr> <td>D 6%</td> </tr> </table>	A 52%	B 30%	C 12%	D 6%	過疎化が進み、独居老人が増えている。その方々に心を込めて年賀状を書き、元気づけている。心を込めて書いている生徒は63%と、前年度よりわずかに増えた。今後も継続する。												
A 52%																			
B 30%																			
C 12%																			
D 6%																			
④ ボランティア活動が将来の仕事を考える機会となった。	（生徒）ボランティア活動について A ボランティア活動が進路決定の参考になった B ボランティア活動が進路決定のまあま参考になった C ボランティア活動が進路決定の参考にあまりならなかった D ボランティア活動が進路決定の参考にならなかった → A+B<70%の場合、改善策を検討	<table border="1"> <tr> <td>A 16%</td> </tr> <tr> <td>B 28%</td> </tr> <tr> <td>C 36%</td> </tr> <tr> <td>D 20%</td> </tr> </table>	A 16%	B 28%	C 36%	D 20%	ボランティア活動を通じて、奉仕の精神とキャリア意識を育成する機会となっている。今後も継続する。												
A 16%																			
B 28%																			
C 36%																			
D 20%																			
学校関係者評価委員会の評価	地域でのボランティア活動を積極的に取り組む中でそこから進路実現の道も開かれる。公共の場所でのマナー指導を学校でもっと積極的に行い、高校生らしい立ち居振る舞いを行えるようにしてほしい。																		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	単に参加するのではなく、活動を通じて奉仕の精神と、活動の意義を感じる事ができるような仕掛けを行う。そして、自分の進路の足掛かりとなるような活動にする。																		